

3年生 国語 ゆうすげ村の小さな旅館

国語で物語文「ゆうすげ村の小さな旅館」を学習しています。

ゆうすげ旅館を1人できりもりしている年を取ったおかみさん、つぼみさんのもとへ美月という色白のぽっちゃりとしたおすめがお手伝いにきます。この美月さん、実はうさぎということが後でわかります。

子どもたちは、美月さんがうさぎであることを表すしかけ、言葉を楽しみながら探しています。

読むための手立てとして、本文を読んで、書き込み記号を書いていきました。

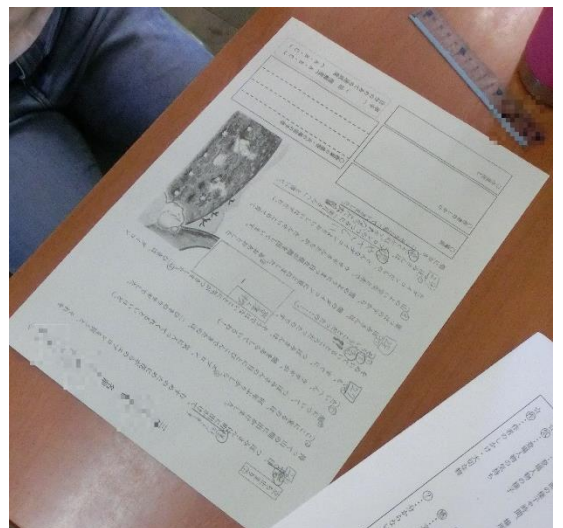
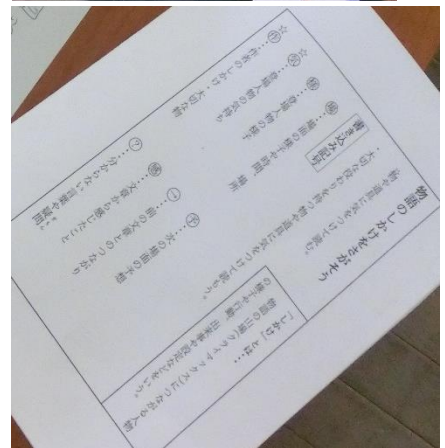
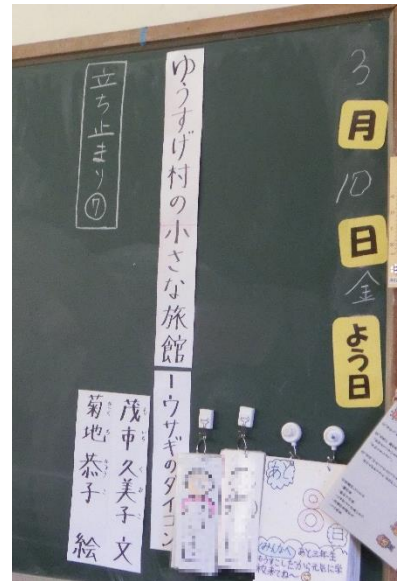
- ㊦…場面の様子や時間、場所
- ㊧…登場人物の様子
- ㊨…登場人物の気持ち
- ㊩…作者のしかけ・大切な物 など

「先生、見て！こんなにいっぱい書けたよ！」と読みを深めていっていました。

子どもたちは「ゆうすげ村の小さな旅館」のお話を通して、『物や道具に気をつけて読む』という力をつけています。

物語には、人物のほかにも大切な役割を持つ物や道具が出てきます。そうした物や道具は、人物の気持ちや、出来事が変わっていくことに関係していきます。物語に出てくる人物と、大切な物や道具との関係に気を付けて読むと、人物の気持ちや出来事について想像をより広げることができます。

4年生でもいろいろな読みの力をつけていってほしいです。



ゆうすげ村の小さな旅館

ウサギのダイコン

茂市久美子文

菊地恭子 絵

場面 美月さんが来て
またたく間に

二週間かすぎた(お客さんが帰る)

登場人物

もつしわけない

美月さんがいやだな

おずおずとエプロンを返す

おいとまする(やめる)

お客さんが帰った

ウサギダイコンの取り入れどき

まほう(耳がよくなる)

山のみんな

おきゅつりなつぶくろを

両手でおし返した

畑をかしてくれたことがとてもうれしかった

ウサギダイコンのしゅうかくをがんばる

勝手に来ただけ

美月さんにげろように帰った

いそいでいる

早く行かなくちゃ

顔を見たら帰りたくなる

小見出し

くな美月さん

くなつぽみさん